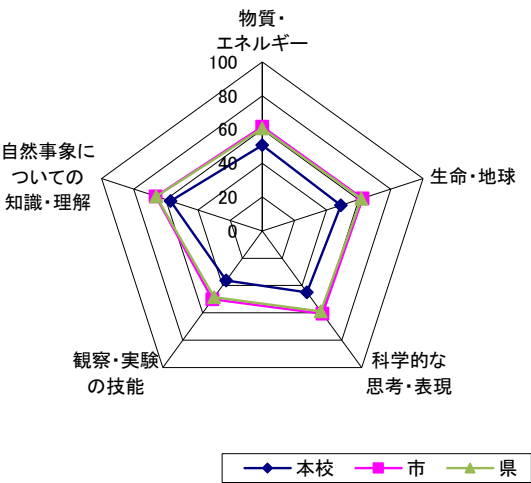


宇都宮市立宝木小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	50.7	61.7	60.7
	生命・地球	48.9	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	45.0	60.6	58.9
	観察・実験の技能	36.3	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	57.1	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、県の平均と比べて低い ○水の中から出てくる泡が「水蒸気」であることを問う問題については、県の平均を10.3ポイント上回っている。 ●閉じ込めた空気と水を圧すときの体積の変化を推測する問題において県の平均を19.0ポイント下回っている。 ●金属の球を温めると輪を通らなくなる理由を説明する問題は県の平均を15.7ポイント下回り、空気の温度による体積変化が水より大きいことを問う問題は県の平均を18.6ポイント下回り、また正答率も27.9%と低いなど、記述形式で答えることに課題がある。	・推測したり、データから考えられることをまとめたりすることに課題があるため、実験や観察を通して、実験の結果を予想したり、結果からわかることを考えたりする活動を行う。 ・繰り返し小テストを行ったり、家庭学習用に課題を出したりすることで、知識の定着を図っていく。 ・何のために実験や観察を行うのか目的意識を持たせて取り組ませ、問題解決できた喜びを味わわせることで、技能の向上や知識の定着を図っていく。
生命・地球	平均正答率は、県の平均と比べて低い ○季節と生物の変化で、オオカマキリの図と同じ季節のカエルの様子を選択する問題は他の設問に比べて平均正答率がやや高い。 ●星座の動きを捉えるために適切な記録方法を問う問題については県の平均を29.6ポイント下回っている。 ●コップの外側に水滴が付いた理由や気温の変化から天気の様子を推測し、理由を問う問題の平均正答率が低く、データを読み取って答えたり、自分の知識を活用して解答したりすることに課題が見られる。	